

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
3年	15	老年看護学実習
3年	16	小児看護学実習
3年	18	精神看護学実習
3年	19	統合実習

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング NS-2-CNP-07				
		●	●	●	●					
科目名	老年看護学実習				単位 認定者	桑田 恵美子		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位			
						授業時間数	120 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	医療と福祉の連携、および老年看護の役割について実践から学び、多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて老年期の対象のニーズをとらえ、老年看護の実践能力を身につける。									
学修者への期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生きている。生病老死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きている人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしてほしい。									
授業計画						準備学修				
I. 実習期間：令和7年5月12日（月）～10月31日（金） 1グループ：3週間 II. 実習施設：JR仙台病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院 JCHO仙台南病院、坂総合病院、東北医科薬科大学若林病院、 富沢病院、仙台赤十字病院 JCHO仙台南病院介護老人保健施設、介護老人保健施設なとり、 介護老人保健施設ハート五橋 III. 実習目的:様々な健康段階にある高齢者を対象に、医療と福祉の連携 とその実際および老年看護の役割について実践から学ぶ IV. 実習目標 【病棟実習】 1. 対象の状態を理解するために必要な身体的・精神的・社会的 変化が理解できる 2. 老年期の対象の特性や状態を理解し、根拠に基づき看護を 計画的に実践できる 3. 老年期の対象の多様な生活背景による価値観を尊重し、尊厳と 権利を擁護するとともに、援助関係・信頼関係を形成できる 4. 老年期の対象を取り巻く保健医療福祉における看護職ならびに 関連職種の役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続に必要な 連携・協働について理解できる（退院支援・退院調整の実際） 5. 自己の看護実践過程や方法を振り返り、自己の持つ課題、看護 実践方法の改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける 態度を修得する 【施設実習】 1. 施設の目的・理念、機能、構造、事業概要、災害時の対応が 理解できる 2. 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的 側面から理解できる 3. 施設における療養生活の場に必要な支援が理解できる 4. 高齢者・家族が望む生活を叶えるため、施設における関連職種 の役割、協働・連携について理解できる 5. 施設における地域の関係者との連携・協働について理解できる 6. 施設実習を振り返り、自己の持つ課題、改善課題を整理し、 専門職業人として成長し続ける態度を修得する 【老年看護学実習全体を通して】 1. 実習を通して自己の高齢者観、老年看護の役割を述べるができる V. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習全体オリエンテーション 2) 看護過程学習 3) 介護老人保健施設実習に向けて特別講義 4) 各サイクル実習終了後、まとめの会を開催する （日程については後日指示する） 2. 臨地実習 1) 病棟実習 2) 介護老人保健施設実習						【事前】 実習開始前に実習要項を十分読み、参加 する（1時間程度） 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化 を学修する（3時間程度） 病棟： 受け持ち患者を理解するために必要な病 態・検査・治療・看護について学修する （5時間程度） 受け持ち患者の看護に必要な看護技術を学 修する（3時間程度） 施設： 介護老人保健施設について概要を学修する （2時間程度） 通所サービス、入所サービスの違いを学修 する（2時間程度）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害』堀井ふさ他編集、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際』堀井ふさ他編集、メディカ出版									
参考文献	『カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術』大塚眞理子編著、医歯薬出版 『系統看護学講座 成人看護学Ⅰ～Ⅲ』（病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書） 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院 『手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美著他、メディカ出版									
備考	詳細は後日配付する実習要項を参照 担当者：専任教員 齋藤美華、桑田恵美子、菅原尚美 非常勤講師 高橋静子、遠藤理加、佐々木ゆみ子、海老原佐智代 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
看護師として高齢者看護の実務経験をもとに、高齢者とその家族に対して老年看護の役割について理解が深められるよう指導する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●	●	●	NS-2-CNP-08				
科目名	小児看護学実習				単位 認定者	武田 美奈子		評価 の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	発達段階を踏まえ、人権を尊重した関わりができる態度を養うために、健康な小児や健康障がいを持つ小児およびその家族への看護の役割について学び、小児看護の実践能力を身につける。									
学修者への 期待等	実習前に小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し、健康な子ども像・健康障がいをもつ子ども像を描き、必要な看護について学修し臨むこと。 保育所・外来・病棟実習と全てつながりのある実習なので、1つ1つ目標を意識した学びを積み重ねて欲しい。自己の体調管理にも十分努めること。									
授業計画						準備学修				
Ⅰ. 実習期間：令和7年5月19日(月)～10月24日(金) 1グループ：2週間						【事前】 実習開始前に実習要項を十分読み、参加する(30分程度) 保育所・外来：抱っこ、おむつ交換、更衣・授乳・身体計測について復習する(30分程度) 保育所：子どもの成長発達について身体的・心理的・社会的側面から復習する(1時間程度) 外来：小児外来の特徴、外来看護の役割、外来で行われる診療・検査・処置・健康診査・予防接種等について復習する(1時間程度) 病棟：受け持ち患児の発達段階と疾患に関する病態・検査・治療・看護について学修する(2時間程度) 受け持ち患児の看護に必要な看護技術を学修する(1時間程度)				
Ⅱ. 実習施設：泉チェリーこども園、泉第2チェリーこども園、 西多賀チェリーこども園 宮城県立こども病院、仙台市立病院、仙台医療センター 光ヶ丘スペルマン病院、JR仙台病院										
Ⅲ. 実習目的：成長発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障がいの有無にかかわらず、よりよい成長発達をとげるための看護を実践する能力を養う。										
Ⅳ. 実習目標 1. 子どもの特性の理解に努め、人権を尊重した関わりができる。 2. 子どもの発達段階や健康状態に合わせた看護を考えることができる。 3. 子どもやその家族とコミュニケーションを図り、看護援助が実践できる。										
Ⅴ. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習全体オリエンテーション 2) 看護過程学習 3) 看護技術学習 2. 臨地実習 1) 保育所実習 2) 外来実習 3) 病棟実習										
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『発達段階からみた 小児看護過程』石黒彩子他編、医学書院 『写真でわかる小児看護技術』山元恵子監、インターメディカ 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 学内カンファレンス・記録提出については教員の指示に従う 担当者：専任教員 武田美奈子、岡崎草代夏 非常勤講師 鹿野ひとみ、高橋あつ子、大石慶子、海老原佐智代 工藤俊平(実習オリエンテーション) ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業は、学修した小児看護の知識・技術・態度を実際に対象に合わせ実践する科目である。そのため看護師として小児看護領域の臨床実務経験を活かし、実践に即した内容を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-10				
		●	●	●	●					
科目名	精神看護学実習				単位 認定者	阿部 幹佳		評価の 方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
					授業形態	実習	授業回数		集中	
授業の概要	多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、精神疾患や障害を持つ対象のニーズをとらえ、精神疾患や障害を持つ対象との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象に必要な看護の役割について学び、精神看護の実践能力を身につける。									
学修者への 期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、看護展開論Ⅲで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。									
授業計画							準備学修			
I. 実習期間：令和7年5月2日（金）～10月31日（金） 1グループ：2週間 II. 実習施設：宮城県精神医療センター、東北会病院、 せんだんホスピタル、青葉病院 訪問看護ステーションこめりな III. 実習目的：精神病院や精神保健医療福祉サービスを利用する対象者との かかわりを通して、こころを病むことを理解し、対象の 抱える課題を共有する中で、必要と考えられる看護を実践 できる基礎的な能力を身につける IV. 実習目標 1. 対象者とかかわりの中で、信頼関係を構築するための 看護師－患者関係を考察できる 2. 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、 自己理解を深める 3. 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱え ている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる 4. こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割 を理解する 5. 看護職を目指す者として望ましい姿勢で実習に取り組むことができる V. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習全体オリエンテーション 2) 実習施設についての事前学習 3) 実習の振り返りと課題整理 2. 臨地実習 1) 病院実習 (1) 患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係 の傾向について考察する (2) 患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考えることができる 2) 地域生活支援実習 (1) 対象者の地域生活支援の実際から、地域で生活をしていく上で 求められる看護師の役割を理解する							【事前】 ・実習オリエンテーション開始前に実習 要項を十分読み参加する (30分程度) ・実習開始前までに、精神保健医療福祉 サービスに関する既習の知識を整理しま とめる（3時間程度） ・実習開始前までに、自己理解を深める ためのプロセスレコードを記載し、自分 自身の感じ方・捉え方・接し方を考察す る（1時間程度） ・実習開始前までに、病院事前オリエン テーションに参加し、学びを記載する (30分程度) ・実習開始前までに、在宅療養支援実習 施設の概要をまとめる（30分程度）			
教科書	②『ナースンググラフィカ精神看護学①情緒発達と精神看護の基本』出口 禎子・他編、メディカ出版 ③『ナースング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口 禎子・他編、MCメディカ出版 ④『精神看護学実習ハンドブック』草地仁史・他編、中央法規									
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美・他編、日総研 『精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開』田中美恵子編著、医歯薬出版株式会社									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部幹佳、加藤真理子 非常勤講師 長橋美榮子、大曾根孝子、高橋あつ子、千葉玉江 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
看護師(病院等に5年以上勤務)としての資格、経験より、学生が精神障害者と関わり、実習目標が達成できるような環境を整え、教授する。

						科目ナンバリング				
						NS-2-CNP-11				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
		●	●	●	●					
科目名	統合実習				単位 認定者	阿部 春美		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	3 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	看護基礎教育の統合と卒後の応用のために、多様な実践の場で学んだ看護活動及び安全・看護管理の実際など踏まえ、チームの一員として協働して役割遂行できる実践能力を身につける。									
学修者への期待等	本学3年間の総まとめの実習です。これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場に近い体制の実習を通してチームの一員としての役割遂行をめざし、また将来のキャリアを見据えるための一助としていきたいと思います。									
授業計画							準備学修			
I. 実習期間：令和7年11月21日（金）～12月12日（金） II. 実習施設：東北医科薬科大学病院、東北公済病院、仙台市立病院、 仙台赤十字病院、JCHO仙台病院、坂総合病院 III. 実習目的：保健・医療・福祉チームにおける看護職能の役割を 認識し、看護マネジメント能力を養い、3年間で学修 した看護の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を 身につける。 IV. 実習目標 1. 複数患者を受け持ち、看護過程を展開するとともに、患者の 状況に応じた優先順位の判断や時間管理を適切に実施できる。 2. 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップを理解し、 チームの一員として責任ある行動ができる。 3. 災害対策や医療事故防止など医療現場における危機管理、 実習病棟における看護管理について 理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームの中で連携・協働して行われている 看護の役割と継続看護について理解できる。 5. 日常生活援助技術や診療の補助技術に関する課題を明らかにし、 技術の向上を図ることができる。 6. これまでの学修を振り返り、自己の看護観を深めることができる。 V. 実習計画 1. 学内実習 1) 実習オリエンテーション 2) 夜間帯の看護：模擬事例・模擬場面を用いたシミュレーション演習 3) 統合実習の学びの共有 2. 病院実習 1) 学生5～6名で班を形成し、教員1名が担当 2) 実習指導は実習施設の実習指導者と担当教員が担う 3) 看護チームの中に入り、チームメンバーとして複数の患者を 受け持つ 4) 看護チームの計画を反映させた看護実践を行う 5) カンファレンスを適宜行い、実習体験を帰納・演繹的に整理							【事前】 ・実習開始前に実習要項要項を十分読 み、参加する（1時間） ・統合実習 事前課題「事故の実習目標 等課題」「目指す看護師像」の作成（2時 間） ・実習病院の病院組織体制、看護部組織 体制に関する学修をする（1時間） ・病棟の診療科に関する学修をする（解 剖生理、疾患、検査、治療、看護など） （3時間）			
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	随時紹介する									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部春美、阿部幹佳、岡崎優子、泉田さとみ、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、 竹田理恵、東海林美幸、二口尚美、小倉真紀、田辺圭子 非常勤講師 松田郷子、大石慶子、畑中晶子、江口美知子、佐々木ゆみ子、海老原佐智代 他2名									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護職としての実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びを統合できるよう教授する。